

地域計画策定に向けた取組み

農委会名：西原村農業委員会

1 地域の概要

西原村は、熊本市の東方約20Km、阿蘇外輪山の西麓に位置し、東部は俵山をはじめとする広大な原野と山林が占め、西へと台地が広がっている。ほぼ全域が火山灰の黒ボク土壌で、村の基幹産業は、米・甘藷・里芋・畜産を中心とした農業である。

近年は農業従事者の高齢化や担い手の不足等により、特に山間部で耕作放棄が増え有害鳥獣による被害の発生が増加の一途をたどっている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 12人（うち認定3人、女性3人）
- (2) 推進委員数 9人（うち認定、女性とも0人）
- (3) 事務局体制 3人（うち専任1人、兼任2人）

3 掲げた目標

- (1) 現在の耕作者を把握した目標地図の素案作成
- (2) 営農継続に対する課題の把握

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

本村の7地区（烏子・小森東・小森西・布田・宮山・河原・日向、葉山、医王寺地区）の現在の耕作者を反映した目標地図作成



（協議の場の様子）

5 取組みの成果（できるだけ数値を用いながら、具体的に）

(1) 地域計画と目標地図の素案作成について

本村においては、村内を烏子地区・小森東地区・小森西地区・布田地区・宮山地区・河原地区・日向、葉山、医王寺地区の7地区において目標地図の作成に取り組みを行った。

意向調査については、村内の農地所有者に対して郵送により行い、今後の意向を把握することができた。

協議の場においては、地区の農業委員、最適化推進委員、認定農業者、認定新規就農者等を中心に実施した。

① 目標地図の素案 7 地区完成

② 担い手への農地集積実績 17.0ha

③ 遊休農地の解消面積 0.2ha

(2) 担い手農業者の把握について

本村においては、集落営農組織及び農業法人は殆どなく、家族経営の農業者が大半であり、農地の集積においては、認定農業者及び認定新規就農者を中心とした経営体では補えない状況にある。よって、兼業農家や意欲のある農業者など現在の農地の耕作者情報を把握し、目標地図に反映させた。



(耕作者情報を反映させた目標地図)

(3) 農地中間管理機構を活用した農地集積の取組について

これまで農地の貸し借りにおいては、農業委員会を通した利用権設定を行っていたが、農地中間管理機構の活用を働きかけている。

6 課題と今後の方針等

7 集落の地域計画については、共通の課題として、各集落間の入り作が非常に多く、集積・集約に向けた集落単位での協議の場の設定が難しく、意向が反映しにくい状況にある。

また、連作障害に影響する作物においては、生産者間において農地のローテーションがなされ、耕作者が流動的であり、目標地図に反映しにくいことが判明した。今後はローテーションされている区域を明確にした地図を反映する事を検討する。

担い手農業者への集積に向けた協議の場については、耕作者と所有者の意向把握が難しいため、地元農業委員等を含めた話し合いの場が必要と感じた。

有害鳥獣の被害については、全域の山間部における課題であり、農地についても日照不足、狭小不形成な農地が点在しているため、計画的な林地化も検討する。